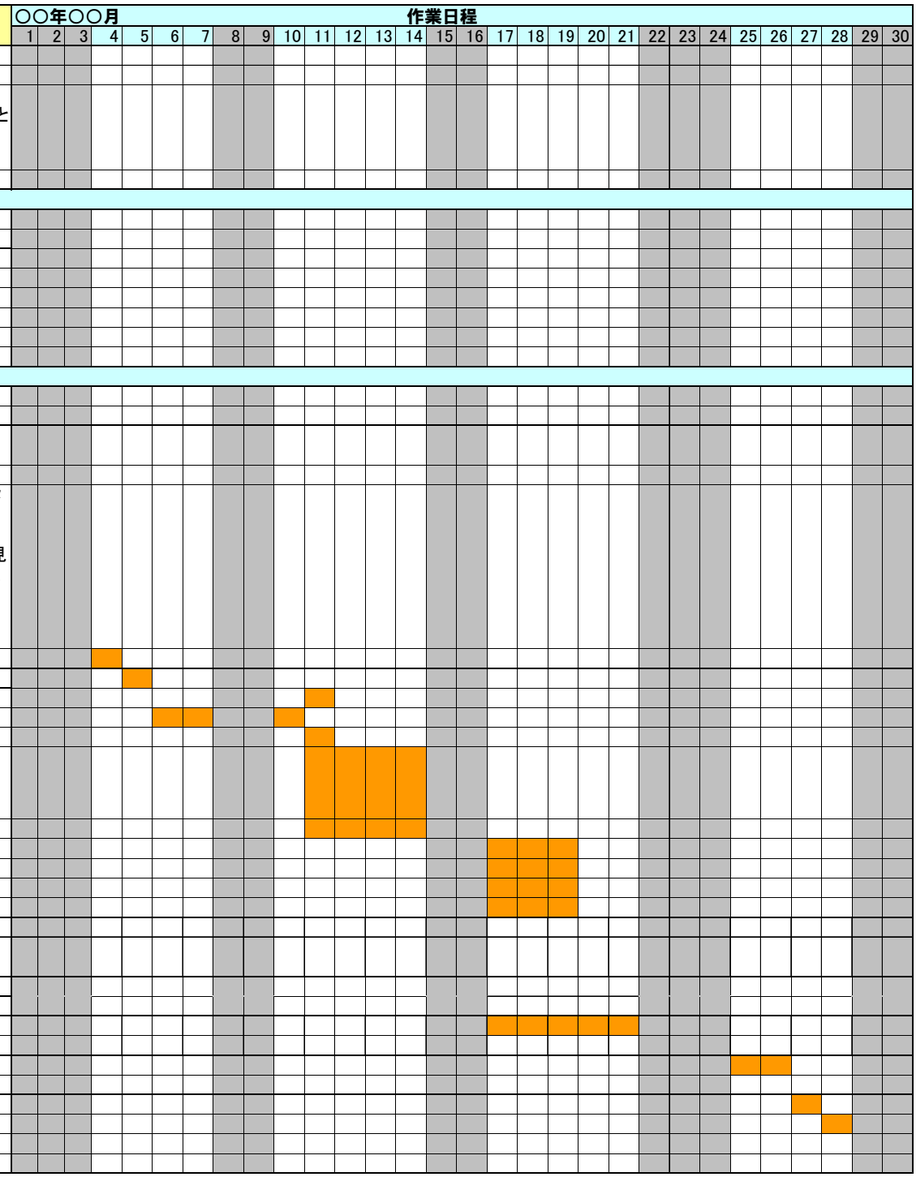
【ご参考資料】　PPMプロト構築作業手順.xls

2009/9/17
株式会社 HJ

※但し、SAP R/3システムログ利用を前提とした手順

	作業ステップ	作業場所		作業項目	注釈／例
1	要件定義	机上	(1)	目的／狙い	
			(2)	対象プロセスと範囲決定	
			(3)	分析切り口の大まかなイメージと実現性の目処を立てる	実現性の目処としては、ログ情報（データテーブル）が、分かれて存在する時に、それぞれの情報（テーブル項目）間に、ファンクションを繋げるためのキーとなるデータ項目が存在することが大前提となる。
			(4)	対象とするプロセスフローのモデリング（EPC図）	
2	環境構築（インストール全般）	共通			
		机上	(1)	必要コンポーネントの洗い出し	
			(2)	必要コンポーネントのライセンス購入	
		サーバ上	(3)	サーバー／ハードウェア準備	
			(4)	インストール　①基本OSインストール	
				②Oracleインストール（10g、最新パッチ適用）	
				③Oracleセットアップ	
				④PPMインストール	インストーラーに従って、Tomcatのインストールから実行する。
				⑤クライアントの作成	
		個別：SAPの差分			
		SAP上	(1)	汎用モジュール移送	
			(2)	ユーザ設定（作成、権限設定）	
3	設定に必要な項目をFixする	机上	(1)	KPIの決定	「LT、件数、累積or平均等」（単位も）を　必要なファンクション間にそれぞれ対応付けて決める。
			(2)	次元の決定	例）担当、製品、客先、地域、カテゴリ・・・・、単位の明示
			(3)	データソースの決定	例）フラグメントのオブジェクト毎にSAPのどのテーブルのどのフィールドデータを抽出するか全ての抽出項目に付いて決める（※SAPテーブルからの通出の場合Sampleフォームあり）。 更に、ファンクションを繋げるためのキー（プロセスキー）を決める。例えば、「見積」ー「受注」と繋げるためには、見積のテーブル情報の中の見積No.と、受注のテーブル情報の中の見積No.によって、同じプロセスインスタンスと判断付くので、見積No.がプロセスキーとなる。
			(4)	要件とのすり合わせ、レビュー	作業ステップ1時点とこの時点でのギャップを調整する。
4	−1 共通設定	ABA上	(1)	フラグメント作成（ABAで設定）（※ABAからエクスポート）	※力作業
		CTK	(2)	エクスポートファイルのPPMへ読込	
			(3)	↓（個別設定）参照	
			(4)	↓（個別設定）参照	
			(5)	フラグメントのオブジェクトにデータソース割当とデータソース内のフィールド項目について必要なプロセスキーの割当てを行う ※割当て：	プロセスキー、オブジェクトキー、マージキー、階層キー、共有キーを割当てる ⇒間違うとエラー／おかしくなってしまう。勉強要 割当のオペレーションは、①型宣言ー②本設定　の2Stepである
			(6)	モデルへ必要なフラグメントのオブジェクト属性を割当てる	
			(7)	KPI（計算式含）の設定	
			(8)	次元の設定	
			(9)	PIKI（プロセスに関係ないKPI）の設定	
			(10)	プロセスツリーの設定とフラグメント、KPI、次元の割当	
	−2 個別設定　SAPテーブルからの抽出時	CTK	(1)	3(3)を基に、SAPEXTRACTOR設定	
			(2)	PPMへの項目設定	（SAPEXTRACTORを介して、ファンクション毎に1データ取り込むと自動で設定される）
	CSV形式での取込時	CTK			※力作業
	JDBCかrなお抽出時				
5	データ取込	CTK	(1)	取込み	
6	フロントエンド設定	端末	(1)	設定	分析の切り口と表示するグラフの追加／修正
7	プロトレビュー	端末			プロトタイプクライアントのレビュー
					プロトタイプ最終報告会

作業日程（○○年○○月）